

一般質問通告一覧

平成27年第1回島田市議会定例会
平成27年3月6日・9日・10日本会議

島田市議会

◎ 発言順位

【代表質問】 (頁)

平成27年3月6日(金)

2番	杉野直樹	議員	(桃李の会：一問一答)	1
13番	福田正男	議員	(きょうどう島田：一問一答)	2
9番	村田千鶴子	議員	(魁しまだ：一問一答)	3
18番	藤本善男	議員	(創造島田：一問一答)	4

【個人質問】

7番	仲田裕子	議員	(一問一答)	5
4番	伊藤孝	議員	(一問一答)	6

平成27年3月9日(月)

3番	横田川真人	議員	(一問一答)	7
17番	大石節雄	議員	(一問一答)	8
11番	桜井洋子	議員	(一問一答)	9
8番	清水唯史	議員	(一問一答)	10
10番	曾根嘉明	議員	(一問一答)	11
20番	平松吉祝	議員	(一問一答)	12

平成27年3月10日(火)

19番	八木伸雄	議員	(一問一答)	14
12番	佐野義晴	議員	(一問一答)	15
5番	山本孝夫	議員	(一問一答)	16
6番	森伸一	議員	(一問一答)	17
1番	青山真虎	議員	(一問一答)	18

【 代 表 質 問 】

1. 2番 杉野直樹 議員(桃李の会) (一問一答)

1. 平成27年度施政方針と予算の大綱について

平成27年度の施政方針と予算の大綱が発表された。染谷市長が就任して3年目に入る今年、市長は年頭の挨拶等で「ギアチェンジをし、力強くリーダーシップを発揮してまいりたい」と発言し、施政方針でも同様に述べている。この施政方針は島田市にとって今後市の方向性が決まる大事な方針になることと思う。そこで、今回はこの方針・大綱について以下質問する。

- (1) 市役所の建てかえについて、優先するものではないと判断したとのことだが、市庁舎の老朽化が進む中、合併特例債という有利な起債を利用せず今後建てかえられるチャンスはあるのか。
- (2) お茶の郷について、県有化の正式な申し入れがあったということだが、その申し入れがあったのはいつなのか。
- (3) 島田金谷インターチェンジ周辺の振興について、都市的土地利用の進展とあるが、開発する土地は市が買い上げるということによいか。

2. 新島田市民病院建設について

新病院建設については今年の夏ごろに基本計画が発表される予定であるが、その計画についてどこまで協議が進んでいるのか進捗状況を伺う。

- (1) 建築整備手法について、どの方式を採用するのが望ましいと考えるか。
- (2) 医師の確保について、具体的な方法は何か考えているか。
- (3) 新病院建設に当たり、既存の施設についてどの施設を残し活用する方針か。
- (4) 新病院建設に当たり、周辺の道路について整備する予定はあるか。

2. 13番 福田正男 議員 (きょうどう島田) (一問一答)

1. 平成27年度施政方針と予算の大綱について

染谷市長は就任以来2年間「公平、公正で、市民の声が届く市政の実現」を目指して市政運営を行ってきた。3年目は強いリーダーシップを発揮していきたいとうたっている。強いリーダーシップとはどういうことか、市政全般にわたって質問してみたいと思う。以下伺う。

- (1) 市長の2年間の市政運営の評価はどうか。
- (2) 今後は染谷カラーを前面に出していくとあるが、具体的な方針は何か。
- (3) 新市立島田市民病院建設基本計画の策定に向けて
 - ① 市長の新病院建設に対する明確なビジョンを示してもらいたい。
 - ② 医師の確保についてはどのように考えているのか。
 - ③ 病床数について、市長の見解を伺う。
 - ④ 事業規模は250億円となっている。縮減の可能性はあるのか。また、返済計画はどのようになっているか。
 - ⑤ 地域医療の連携について、市長はどのように進めていくつもりか。
- (4) 公共施設の再配置計画について、今後どのように進めていくのか。
- (5) 人口減少社会に対応する施策について
 - ① 市の具体的な移住政策は何か。
 - ② 雇用の安定のためには何が必要か。
 - ③ 子育て支援策はどうか。
 - ④ 地域おこし協力隊や新規就農に対する市の取り組みはどうか。
 - ⑤ エネルギーの地産地消の取り組みはどうか。
 - ⑥ 防災、減災の取り組みはどうか。
- (6) 2020年東京オリンピック・パラリンピックのマラソン競技の合宿誘致の推進はどのようになっているのか。

3. 9番 村田千鶴子 議員(魁しまだ) (一問一答)

1. 主要な施策に対する市長の方針について

市長は施政方針の中で「地域の熱い思いが、「負けないまち」「生き残るまち」の実現に向けて、私を一步前へ、そして、さらに前へと突き動かしてくれます。」と述べている。

そのためには政策と戦略が必要であり、また、これを実現する首長の強いリーダーシップが求められる。以下について市長の所見を伺う。

- (1) 「負けないまち」「生き残るまち」とは何か。
- (2) 以下のプロジェクトの現状と今後の方針を伺う。
 - ① 旧金谷中学校跡地の整備と空港周辺の賑わい創出について
 - ② 2020年東京オリンピック・パラリンピックの合宿誘致について
 - ③ 定住・移住の促進について
 - ④ 大井川鐵道について

2. 人口減少対策について

市長は施政方針の中で、国は地方創生の名のもと「人口減少対策を基本とする「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が決定され、地方公共団体には「人口ビジョン」や「地方版総合戦略」の策定が求められています。」と述べている。以下、今後の方針について市長の所見を伺う。

- (1) 国の総合戦略と県の抑制と適応の戦略4項目を踏まえた上で、市の戦略はどうなっているか。
- (2) 人口減少時代における都市経営について
 - ① 本市における将来人口推計はどうか。
 - ② 市における人口減少の現状と課題は何か。
 - ③ 人口急減を防止するための具体的な戦略（仕事と生活への支援、産業振興策、中山間地域振興策）をどのように描いているか。

4. 18番 藤本善男 議員(創造島田) (一問一答)

1. 平成27年度施政方針について

(1) 地方創生への対応について

- ① 島田市まち・ひと・しごと創生推進本部のこれまでの取り組みについて伺う。
- ② 人口ビジョンはどのように描くのか。
- ③ 地方版総合戦略と総合計画はどのように整合性をとるつもりか。
- ④ 若者の雇用創出、結婚・出産・子育ての希望をかなえるため、具体的にどのような環境整備を行うのか。
- ⑤ 過疎地域の自立促進はどのように考えているか。

(2) 全身全霊をもって臨むべき重大事について

- ① リニア中央新幹線建設への対応、浜岡原発に関する安全協定締結に向けた取り組みに全身全霊を傾ける理由は何か。
- ② 具体的にどのようなことに取り組むのか。

(3) 市役所本庁舎のあり方について

- ① 昨年、市役所本庁舎の建て替えの意思表示をしてから今回の施政方針で本庁舎の継続使用を決めるまでの経過を改めて伺う。
- ② 念のために本庁舎の安全性確認を行う理由は何か。

(4) お茶の郷の県有化について

- ① 島田市が経営してきたお茶の郷の課題と、県に譲渡することによる期待は何か。
- ② 旧金谷中学校跡地の利用方針は今後どのように具体化するのか。

(5) 富士山静岡空港新駅の設置について

- ① 空港新駅の設置可能性はどの程度であると考えているか。
- ② 新駅実現に向け、市が具体的に取り組むことは何か。

(6) 地域力の強化に資する取り組みについて

- ① 地域資源を生かす取り組みとして、先端的新産業の立地や観光プランの開発はどのように具現化していくつもりか。
- ② 安全・安心を確保する取り組みのうち、自主防災組織の役割を高める内部連絡組織の構築とはどのようなことか。

【 個人質問 】

5. 7番 仲田裕子 議員 (一問一答)

1. 「ふじのくに茶の都しずおか構想」について

島田市お茶の郷を県へ移行させる旨の新聞記事が昨年より数回報道され、一般質問でも今まで何回か市の考え方を質問した。

市長は平成27年度施政方針と予算の大綱の中で「島田市の飛躍を目指し、力強くリーダーシップを発揮してまいりたいと考えております。」との意欲を示し、お茶の郷の県有化について、正式な申し入れがあり県への譲渡を進める考えと「旧金谷中学校の跡地利用と併せ、地域全体の活性化に資するものとなるよう、県との確固たる連携の下で」進めるとし、お茶の郷を県に譲渡することに伴う補助金・返還金を予算計上した。

このことを踏まえ、県の「ふじのくに茶の都しずおか構想」に対する市の方向性の具体案を、市長はどのように考えているのか伺う。

6. 4番 伊藤 孝 議員 (一問一答)

1. 収入増について

(1) ふるさと寄附金（ふるさと納税）制度について

- ① 申込み件数と金額の詳細を伺う。
- ② 人気のあるお礼の品は何か。
- ③ 産業観光部は積極的に関わりを持っているか。

(2) 命名権（ネーミングライツ）は検討しているのか。

(3) 本社誘致の取り組みはどのような状況か。

2. 指定管理者制度と民営化について

(1) 島田市における指定管理者制度と民営化の違いについて

- ① 指定管理者制度と民営化を行っている施設はどこか。
- ② 指定管理者制度または民営化を選択した理由と経緯は何か。

(2) かわね保育園の民営化について

- ① 指定管理とせず民営化を選択した理由は何か。
- ② 継続運営していくための採算ラインの人数は何人か。
- ③ 川根地区における今後の園児の予測人数はどれくらいか。

7. 3番 横田川 真人 議員 (一問一答)

1. 地方創生について

国の平成27年度予算において、地方創生のための予算が1兆円計上されている。その他、地方へ向けられている予算が61.5兆円と過去最大である。地方に目が向けられている平成27年度は島田市を盛り上げるチャンスと考えられる。

(1) 島田市ではまち・ひと・しごとの創生をどのように考えているか。

- ① 若い世代の就労・結婚・子育てのサイクルを創るためには何が必要か。
- ② 東京一極集中の食いとめ、島田市に人を呼び寄せるための施策は何か。
- ③ 島田市の特性を生かした課題の解決方法は何か。

8. 17番 大石節雄 議員 (一問一答)

1. 島田市の移住・定住対策について

人口減少が国・県、地域社会での大きな問題となっているのは周知のとおりである。前定例会でもこの問題を取り上げたが、一步踏み込んだ議論をし、この地域の将来について具体的な対策の議論をしたい。特に、移住・定住対策、関連して人口減少の対応として若い世代の結婚・出産・子育てについて以下質問をする。

(1) 市の移住・定住施策の内容について

- ① 具体的な取り組み事業は何か。また、その成果はあるか。
- ② 就職・学業等都会へ流出する要因はわかるが、現実問題として定住するための条件はどうか。
- ③ 子育て支援住宅や市営住宅退去後の定住対策はできているのか。
- ④ 市有地で住宅地として売却可能な土地はどれくらいあるか。また、売却する考えはあるか。
- ⑤ 定住者に対する支援対策はあるか。
- ⑥ 市の移住・定住者の目標はあるか。
- ⑦ 過疎地域の移住・定住施策はあるか。

(2) 人口減少の対応として、若い世代の結婚・出産・子育てについて

- ① 地域おせっかい人養成事業の取り組み状況はどうか。
- ② 合計特殊出生率が全国平均とは同様であるが、県平均と比べると低い状況についてどのように捉えているか。
- ③ 島田市子ども・子育て支援計画がパブリックコメントを経てつくられようとしている。他市との違いや特色はあるか。

(3) 若者の移住・定住について、就職、住宅、子育て環境の対応による人口減少対策、それによる地域活性化は重要であるが、どのように考えているか。

9. 11番 桜井洋子 議員 (一問一答)

1. 「改定」介護保険について

- (1) この4月から要支援1・2の方が受けていた訪問介護、通所介護が介護給付の対象から外れ、島田市が行う地域支援事業に移行することになる。これまで受けていたサービスを後退させてはならない。以下伺う。
 - ① 現段階での要支援1・2の該当人数はどうか。
 - ② そのうち、訪問介護、通所介護を受けていた人数はそれぞれ何人か。
 - ③ 4月からのサービスはどのように提供されるのか。
 - ④ 介護事業所、NPO法人、ボランティア団体等との話はどのように進んでいるのか。
 - ⑤ サービスの利用料はどうなるのか。
- (2) 介護申請前の基本チェックリストはどう活用されるのか。
- (3) 介護給付費の抑制はどのように実施されるのか。
- (4) 特別養護老人ホームの待機者がふえる中、計画では平成29年度に70床の増床計画だ。介護報酬の2.27%の引き下げもあり、特別養護老人ホームの経営状況は厳しくなる。参入事業者の確保についてはどうか。
- (5) 65歳以上の介護保険料は大幅な引き上げだ。低所得者への減免対策はどうか。

2. 就学援助制度の充実について

子どもの貧困率が問題になっている。親の経済力が教育に影響することが改善されないでいる。「教育の機会均等」、「義務教育は無償」の憲法の理念を生かし、経済的に困難な家庭への援助が必要だ。小・中学生の学用品費や給食費、入学準備金、医療費などを補助する就学援助制度の充実を求め、以下伺う。

- (1) 小学校、中学校の就学援助の受給者数はどうか。
- (2) 制度の広報、周知徹底はどうかされているのか。
- (3) 国は2010年度から、PTA会費、クラブ活動費、生徒会費を支給項目につけ加えた。島田市でもこれらを支給項目に加えるべきだがどうか。
- (4) 新一年生への入学準備金の支給は手続きの関係から1学期の終わりごろになってしまふ。経費が必要なのは入学前である。市独自で入学前に支給できるよう便宜を図るべきと考えるがどうか。

10. 8番 清水唯史 議員 (一問一答)

1. シティープロモーションの施策への取り組みについて

シティープロモーションへの取り組みについて以下予算の大綱に基づき質問する。

(1) 「都市基盤が充実し、ひとやもの、情報が活発に交流するまち」の施策のうち

① 地域情報化と電子自治体の推進について

ア オープンデータの取り組み推進の詳細を伺う。

イ オープンデータの具体的な利用方法を伺う。

(2) 「産業がいきいきと活発なまち」の施策のうち

① 観光の振興について

ア 今後の観光情報の発信方法の取り組みを伺う。

イ 滞留性及び回遊性の高い観光のための取り組みを伺う。

② 大井川鐵道との連携について

ア 島田市と大井川鐵道のきかんしゃトーマス運行に関する連携方法を伺う。

③ お茶の郷周辺の活用について

ア お茶の郷にこれまで投じた経費を踏まえ、県との売却条件はどのようなことを考えているか。

イ 県有化後のお茶の郷の観光資源としての活用方法を伺う。

ウ 旧金谷中学校跡地の利活用をお茶の郷とどのような連携のもと進めるか。

2. 安全・安心なまちづくりの施策への取り組みについて

安全・安心なまちづくりの体制を築くために、昨年より防災に対して豊富な経験を持つ眞部危機管理部長が着任し、初めての新年度を迎えようとしている。

「市民が安全・安心に暮らせるまち」について、眞部危機管理部長の指示のもと危機管理体制がどのように進められていくのか。以下質問する。

(1) 危機管理体制の強化について

① ハード面における体制強化の重点施策は何か。

② ソフト面における体制強化の重点施策は何か。

(2) 住民の防災への取り組みについて

① 現在の地区ごとで実施されている防災訓練の検証と、今後の取り組みへの考えを伺う。

② 近隣市及び広域防災訓練への取り組みをどのように考えているか。

(3) 各自治会での夜間防犯に対する取り組みについて

① 防犯灯の設置、管理はどのように行われているか。

② 防犯灯の経費負担及び維持管理費はどのようになっているか。

11. 10番 曾根嘉明 議員 (一問一答)

1. 自治基本条例の制定について

市長は、平成27年度予算の大綱の中で「市民・議会・行政がそれぞれの役割を認識し、住民自治による協働のまちづくりを進めるための「自治基本条例」の制定に向けて取り組んでいくとともに、市民意識の高揚と一体感の醸成を図り、郷土を愛する心を育てていくことを目指すため「市民憲章」を制定してまいります。」と述べている。また、市長就任当初の所信表明においても、地方自治の憲法として「まちづくり基本条例」を制定したい旨を表明している。

地方公共団体の運営は、地方自治法の中にその大綱が定められており、住民自治を図るための制度は現行法のもとで規定されている。私は、市長が自治基本条例をもってこれが自治体の憲法であり最高規範とまで言及していることに疑問と戸惑いを感じているので、以下について市長の考えを伺う。

- (1) 条例化の法的根拠と目的は何か。
- (2) 他市における制定の状況と条例化の効果はどうか。
- (3) 本条例は何を定めるのか。
- (4) 住民自治による協働のまちづくりについて
 - ① どのような定義か。
 - ② 住民自治を図るための現行法制度（都市計画法の縦覧制度、住民意見公募制度、住民監査請求制度や住民投票制度等）との関係はどうなるのか。
 - ③ 議会の権能（調査権、審査権、議決権）との関係はどうなるのか。
 - ④ 住民自治の基礎である自治会制度をどのように考えているのか。
 - ⑤ ゆめ・みらい百人会議は条例化を経ずして設置されているが、条例上どのように位置づけるのか（意見聴取、諮問、調査、市民学習のいずれか）。また、何を付議する機関なのか。
- (5) 「市民憲章」の制定との違いは何か。
- (6) 本市において喫緊の課題が山積する中で、自治基本条例制定の優先度、緊急性をどのように考えているか。

2. 韓国東豆川市との交流について

平成27年度予算の大綱の中で、国際交流の促進については韓国東豆川市へ訪問団を派遣するなどして国際色豊かな人材の育成や市民レベルの交流活動の促進につなげていくとしている。そうした中、東豆川市とは平成23年11月に友好増進に関する合意書が交わされ、以降市民交流が行われていると認識している。昨年10月のしまだ大井川マラソン in リバティには、東豆川市のキム副市長を初め陸上連盟の皆さんが参加され見事完走されたことは記憶に新しい。

こうした交流活動を地道に、そして積み重ねることによって国際交流の発展につながると思われる。以下、東豆川市との今後の交流に関して伺う。

- (1) 今後、どのような交流計画を考えているのか。
- (2) 国際交流協会における位置づけはどうなるのか。

12. 20番 平松吉祝 議員 (一問一答)

1. 予算編成過程の公開について

昨年事業仕分けが実施されたが、最初の段階で800事業を約半分の417事業に行政サイドで選定した。また、さらに選定され最終的には36事業に絞られた。事務的事业だからと除外されていくのであれば、その予算ができる過程を公開していなければ不透明感だけが残る。

多くの地方自治体の予算編成における問題点は透明性の欠如である。予算編成過程における予算査定という作業は「密室の秘儀」とも言われ情報公開時代の現代にはそぐわないものとなっている。市民に公開すべきであると提言し、この公開について以下伺う。

- (1) 予算編成過程のフローチャートはどのようになっているか。
- (2) 各部署から上がってくる予算要求書は何をもとに、どのように作成されるか。
- (3) 全ての業者から次年度予算の見積書をとっているわけではないと聞いているが真実か。
- (4) 公平・公正を主張する染谷市長ならば、予算編成過程の公開は当たり前のことと捉えるがどうか。

2. 消防・防災体制について

島田市では昨今、火災が相次いで発生している。地元消防団の活動の大切さを再認識し、全市民は自助・共助の精神で一丸となって消防・防災に取り組むべきと捉える。そのために何をなすべきか、以下伺う。

- (1) 危機管理部と消防との役割分担がわかりにくいという声がある。防災組織図など消防・防災体制を市民にもっとわかりやすく提示することが必要ではないか。
- (2) 消防団員は条例では955人だが実団員889人である。年々確保が困難になっているが、どのような対策を考えているか。
- (3) 大規模地震発生時、自助・共助の観点から同時多発的に発生する火災について自主防災組織が行える活動として何を考えるか。首都圏においては、消火栓を使用した防災訓練が取り組まれているがどうか。
- (4) 消火栓の設置数や安全管理はどのようになっているか。
- (5) 防火水槽の設置数や安全管理はどのようになっているか。
- (6) AED設置場所については市のホームページに記載があつてよいが、文字の羅列だけではなくさらにマップで提示することも必要ではないか。また、AEDには小児用パッドも整備されているのか。
- (7) 平成28年度から静岡地域消防救急広域化に向けて、デジタル無線設備など準備を進めるとあるがどのような準備をしていくのか。そのメリットとデメリットは。
- (8) 広域化に向けて消防署員はどのような準備をしているのか。
- (9) 東日本大震災では中・高生が率先して避難したことで多くの人々が難を逃れた事実が明らかとなっている。防災教育の重要性を再認識し、島田市としてはどのように取り組んでおり、今後どのように考えているか。

3. 空港アクセス道路整備について

道路は人を運び、物を運び、そして文化を運んでいる。その整備状況を見ればその地域の経済の発展ぶりがわかるとさえ言われるほど、私たちの生活においては重要なものである。かねてより道路整備の大切さを訴えてきたが、以下伺う。

(1) 阿知ヶ谷東光寺線、道悦谷口道線の整備について

- ① 空港アクセス道路となっているが、県道への格上げはどのようになっているか。
- ② はばたき橋ができ交通量は緩和されるとのことであったが、依然変わらぬ現状にどのような対策を考えているか。

(2) 東光寺インターチェンジ周辺について

- ① 渋滞と事故が多い。4車線化の見通しはどのようになっているか。
- ② インターチェンジの西方面への乗り入れ口設置の予定はどのようになっているか。

13. 19番 八木伸雄 議員 (一問一答)

1. 子供の貧困対策は

内閣府の調査では子供の貧困率は2000年以降増加し続け、2014年度では16.3%、子供の6人に1人が貧困と言われている。少子高齢化社会の現在、介護・子育ては当事者だけでなく社会全体でそれを支えようと言われているが実態はどうか。島田市の実態と対策について以下伺う。

- (1) 内閣府で言う子供の貧困の定義はどのようなものか。
- (2) 島田市における子供の貧困の対象者数は何人か。
- (3) 子供のある貧困家庭に特化した子育て支援にはどのような支援があるか。国・県・市それぞれ伺う。
- (4) 子は親を選ぶことはできない。しかし、生まれた家の環境の中で生きていかなければならない。貧困の連鎖をさせないことが重要と考えるが、当局の認識と対策を伺う。

2. 農業後継者対策について

茶業を初めとし農業の低迷化が叫ばれて久しい中、現政権では農家の所得を倍にするとの力強い発言が総理大臣から示されている。農家の一人として大変心強い限りであるが、現実的な施策が示されない中での総理の言葉だけでは、うのみにしていいものかと感じている農家は私一人だけではないかと思う。国・県の施策を鑑み島田市の農業後継者に未来はあるのか。以下伺う。

- (1) 島田市の農業後継者について、40歳未満の農業従事者と将来就農する見込みのある30歳以下の後継者を含めおおよその人数を伺う。
- (2) 国が示す所得倍増の根拠と、それに対する国・県の施策があれば伺う。
- (3) 市は茶業後継者支援として専門官を雇用して茶業者並びに後継者に指導する方針を示した。現状はどうか。
- (4) 今後の農業後継者の育成をするための施策を伺う。

14. 12番 佐野義晴 議員 (一問一答)

1. 道路行政と地域づくりについて

本市を取り巻く社会経済情勢は時代の流れとともに加率的に変化し、それにより地域維持のあり方や生活に関わる利便性にも格差が生じてきた。

道路は、その格差を和らげ健全かつ快適な市民生活の確保や地域産業を持続的に発展させる上で重要な社会基盤であって、地域づくりに欠かせない社会資本である。これこそが国が推進する地方創生の原点だと思う。

以上を踏まえ、以下質問する。

- (1) 国道一号島田金谷バイパス4車線化に向けての現況と今後の動向を伺う。
- (2) 通称大津通りから千葉山に至る南北道路について
 - ① 国道一号の中河町・野田間が県道に移管されると聞く。管理体制の違いによる影響を伺う。
 - ② 地域要望にある県道伊久美・元島田線バイパス道路の計画動向を伺う。
- (3) 耕作放棄地問題と農業の持続的維持を考えた管理道路の必要性を伺う。

15. 5番 山本孝夫 議員 (一問一答)

1. ギアチェンジするという今後の市政運営について

市長は今年の年頭の挨拶で、今年は一期目の折り返し点、これからはギアチェンジして市政に当たると述べている。この言葉の意味するもの、そしてこれからの染谷市政について以下伺う。

- (1) ギアチェンジするとは何を意味するか。
- (2) 一期目あと残り2年間で何が重点課題で、何をするか。
- (3) さらにその後、新病院が完成するであろう平成32年ころの中期的なビジョンの中で何が課題になっていて、今から何をするか。
- (4) 30年後を見据えた病院建設を考えると述べている。30年後の島田市はどのような課題があって、そのために今から何に取り組むか。

16. 6番 森 伸 一 議員 (一問一答)

1. 伊太和里の湯について

- (1) 年始にシルク湯の設備の調整不良があったようだが、現状はどうか。また、この原因究明や対策をどのように行っているか。
- (2) 事業仕分けの評価を受けてどのような点を改善したか。

2. 子ども・子育てと文化・歴史を生かしたまちづくりについて

- (1) こども館は4月から指定管理になるが、以前中央町の児童センターで行われていた取り組み（機能）は、どの程度こども館に引き継がれているか。
- (2) 牛尾山遺構の一部の保存と記録説明板を設置してほしいという要望が市民から出された。前向きに検討すべきと考えるがどうか。
- (3) 市内にある歴史案内板や文学碑などの整備、維持はどのようになっているか。
- (4) 案内板や文学碑の活用をどのように考えているか。

3. 職員の意識改革、人材の育成について

職員の意識改革の方策として、職員研修の見直しや職員提案制度の充実を図りたいという回答を昨年6月定例会で得たが、その後どのようになっているか。

17. 1番 青山真虎 議員 (一問一答)

1. JR金谷駅前通りの活性化について

島田市総合計画後期基本計画の中に、金谷市街地ゾーンの計画的な土地利用について方向性が示されている。旧金谷町の大きな発展のための元々の中心的存在であるJR金谷駅前通りの活性化について、以下伺う。

- (1) まず、質問の大前提としてJR金谷駅前通りは活性化すべきと考えているか。
- (2) 総合計画にのっとりどのようなアイデア・計画を考えているか。
- (3) 活性化をする上での課題と、行政として最初に手をつけるべきは何と考えているか。

2. 旧金谷町の全体の課題とこれからについて

- (1) 大井川という一級河川を挟んだ市域として、駿遠橋と国道一号の間には一般の橋はかかっていないが、これは全国の一級河川で橋のかかっていない区間としては何番目に長い区間か。
- (2) 金谷には代々すばらしい井戸水があるが、その利用率と問題点、資源としての発信、今後の渇水対策についてどのように考えているか。
- (3) 新東名島田金谷インターチェンジ周辺の構想について、地域の協議会から提出された提言書をどのように反映させていくのか。また、地方創生事業にどのように対応していくのか。
- (4) 水害による避難勧告が出た場合の避難行動の指針を町内に配布したと思うが、避難したことによるリスクについて触れたものか。

3. 市政が理想としている病院像と実際の建設予測について

- (1) 市長の目指す新病院像はどのようなものであったか。
- (2) 建設費250億円はマックスと答弁していたが、これ以上の建設費は許容範囲か。また、現地建てかえの場合に法的義務が生じる道路拡幅や水路整備は建設費とは別で考えているか。
- (3) 建設コストや建物の構造、療養型の病床数において、世代間の負担の分担の考え方について伺う。